

<近畿>

石山駅観光案内所

- 「**寿長生の郷**」:琵琶湖から流れる瀬田川沿いに自然の景観をそのままに活かした和菓子づくりの里。広大な敷地には桜や梅、椿、紫陽花そして櫟、栗、赤松などが原生し、昔から変わらない四季折々の日本の原風景を楽しむことができる。自然景観そのままの散歩道には数十万株の野の花が一年を通じて咲き、敷地内にある数寄屋造りの建物では来訪客向けに和菓子作りや紙漉き体験なども行われ、春の節句の時期には歴史のある1700年代に作られた珍しい享保雛などが展示され、毎年多くの人々が訪れる。また、敷地内には和菓子の材料として使われる梅の木が約1,000本植えられており、毎年梅狩り体験も行われ、一年を通して季節に合わせた「食」と「各種体験型イベント」の両方を楽しむことができる。

彦根観光センター

彦根城下町の南東部に位置し、彦根築城時から近代初期まで様々な店や人々が集まる繁華街として栄えた地区である「河原町芹町地区伝統的建造物群保存地区」は、今なお小路や伝統的な町家が多い歴史的景観が残る地区。最近はその街並みを保存するだけでなく、従来の彦根城界隈の観光地だけではない新たな観光資源として、積極的に活用し、地方創生の一端を担えるよう、町家をカフェや集会所(寺子屋力石)にするなど様々な人が集まる取り組みをしている。

名神高速道路 大津サービスエリア 上り線インフォメーション

名神高速道路 大津サービスエリア 下り線インフォメーション

地元の行事で、本来ならば毎年10月に開催される「大津まつり」。湖国三大祭の一つで、古くからの歴史がある。曳山の綱を曳く訪日客をよく見かけた。日本古来の伝統の祭りに、外国籍の来訪者を迎え入れる取り組みをしている。日本の歴史に直に触れていただける機会になると思う。

栗東観光案内所

滋賀県事業の「やまの健康推進地域」のモデル地域に採択され、観光協会を中心に、地域の住民組織である「明日の走井を考える会」及び「**金勝生産森林組合**」とともに、農林業体験を通じた、山へのアクションプログラムに取り組んでいる。 <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shinrinhozen/310074.html>

京都総合観光案内所

- 環境負荷の少ない自然共生型のアウトドアアクティビティや観光:和束町では2021年4月より「グリーンスローモビリティによる茶畑周遊ツアー」が開始されている。環境に優しい新たな観光手段としての電動小型低速車両を利用した運転手ガイド付茶畑周遊ツアーであり、日本遺産に登録されている石寺の茶畑景観も楽しめる。また、京都府の主な観光地では様々なサイクリングやまち歩きのツアーやプランがある。例えば、丹後エリアでは天橋立近郊、伊根町内などを巡るe-Bike(電動アシスト付き自転車)ツアーや、京都市内では「三尾探訪ウォーキング 高雄・榎尾・梅尾」プラン、レンタサイクルによる「京都のカフェ&まち巡り」プランなどがある。
- 京都の伝統工芸の作り手と使い手をつなぐ見学・体験・販売:京都では外国籍の観光客にも人気が高い、くみひも、象嵌、西陣織、京染、京友禅をはじめ、多くの伝統工芸の見学や体験教室がある。特に京都伝統産業ミュージアム、西陣織会館、京都ハンディクラフトセンターでは、職人・名工の見学(工房など)や制作体験、展示品の購入などができる。

- 8月のお題「サステナブル・ツーリズム～観光の力で地域の環境や文化、経済社会を守る地元の取り組みの紹介」(西日本) ◎ビジット・ジャパン案内所(Vol.503)
- 古民家など地域の有形文化資産を利活用した宿泊施設や商業施設:美山のかやぶきの里、伊根の舟屋などでの宿泊、食事などと共にラフティングやサイクリングツアーなどが実施されている。
- ガイドを利用した文化などの理解を深める体験:京都市観光協会では「事前予約で楽しむ京都旅」として、僧侶によるプライベートツアーを数多く企画している。また昼食付きコース、座禅付きコース、寺御用達和菓子店の和菓子作りなど、ガイドプラスアルファの文化体験も企画している。

天橋立駅観光案内所

- 岩ガキ、とり貝、オリーブ、アカモク、ホンモロコなど、地元の特産品を「MADE IN MIYAZU」としてブランド化し、商品開発している。
- お土産物を入れる袋として「土にかえる米ぬか原料の手さげ袋」を使用している店舗がある。
- 「宮津観光アテンドまちなか案内人の会」は、宮津の歴史・イベント・文化を紹介するボランティアガイド。
- 「宮津市エコツーリズム推進協議会」では、救命救急講習や自然観察指導員講習を受講するなど、皆様に安全快適に案内するための知識技術を常に磨いている。地元の海と山を活かした仕事のプロ、親から子へ伝え続けてきた暮らしの技など、それぞれの貴重な宝を活かした体験メニューを用意している。

阪急京都観光案内所・河原町

京都市動物園で使用している餌に関して、有名寺院大本山御用達のお豆腐屋さんから毎朝できたてのおからが提供されている。これにより市は財政が節約でき、お店は廃棄量が減少する。動物たちも「安くておいしい」と喜んでいる、に違いない。

トロッコ亀岡駅観光案内所

平成30年3月、亀岡市は循環型社会の構築のため「亀岡市ゼロエミッション計画」を策定した。プラスチックごみゼロ宣言の取り組み。きっかけは保津川下りの船頭さんが保津川渓谷の自然景観に影響を与えるペットボトルやレジ袋、発泡スチロールなど、流域に漂着するプラスチックごみの清掃活動を始めたことによる。平成19年3月には、保津川遊船企業組合の中にエコグリーン委員会が誕生し、組織的な清掃活動が実施されるようになった。しかし、拾っても拾ってもなくなる漂着ごみ。大雨などで保津川が増水すると、きれいになった保津川が再びプラスチックごみだらけ。「自分たちが取り組むこの清掃活動に意味があるのだろうか」と心が折れそうになる委員達だったが、そんなエコグリーン委員会の活動に意味を与えたのは、地球規模の問題となっていた海洋プラスチック汚染だった。清掃活動を始めた船頭さんの一人である、豊田理事長は「保津川でのプラスチックごみとの戦いは、結果として下流にプラスチックごみを流さない、海洋プラスチック汚染という大きな戦いにつながっている。自分たちの戦いに大きな意義があることに気付くことができた」と想いを語っている。さらに亀岡市は、住環境や自然環境をより向上させ、「世界に誇れる環境先進都市」の実現を目指した取り組みを進めている。 <https://www.city.kameoka.kyoto.jp/kankyousoumu/plasticzero.html>

■活動の一例

- ・かめおか保津川エコ na 川下り:保津川環境や漂着ゴミ・プラスチックゴミの現状を見ていただける、通常の川下りでは体験できない特別ツアー。保津川遊船企業組合では、2021年8月30日までの期間、亀岡市から京都・嵐山まで流れる保津川の漂着ごみの現状を視察する「かめおか保津川エコ na 川下り」を実施した。
※このツアーは亀岡市の補助を受けて実施した。今後も開催予定が考えられる。
- ・保津川下り乗船場の売店でレジ袋(紙)を有料化:外国籍のお客様には、有料が当たり前という国も多く、自然と受け入れられている(トロッコ亀岡駅観光案内所、トロッコ亀岡駅売店、JR 亀岡駅観光案内所併設かめまるマ

ートなど亀岡市内各店舗)。

- ・保津川エコラフティング:保津川遊船企業組合では、ラフティング参加時にマイボトルやマイカップを持参するとミニカラビナがもらえる「保津川エコラフティングチャレンジ」を実施。保津川の雄大な渓谷美を満喫できる「ラフティング」。その要である自然環境を守るため、ペットボトル削減という身近なことから始め、プラスチックごみ問題に関心を持ってもらおうという取り組み。

関西ツーリストインフォメーションセンター京都

京都市は以前、世界各国からの観光客の急増によりオーバーツーリズムの象徴都市とも言われ、多くの観光客の存在は一部の地域で住民の生活を脅かす存在になろうとしていた。しかしコロナ禍において訪日客はもとより修学旅行生の姿もまばらとなり回復に努めていく中、それまでの京都に戻るのではなく、市民生活と共存し、地域に貢献する「持続可能な観光都市」を目指すため、昨年京都市は新たに「京都観光行動基準(京都観光モラル)」を、設定した。これは、

- ・地域文化・コミュニティへの貢献、市民生活と観光の調和
- ・質の高いサービス・商品の提供・人材育成
- ・環境・景観の保全
- ・災害や感染症などの危機に強い観光の実現

の4つの観点において、

- ・観光事業者・従事者(地域と共に事業が持続的に発展していくために)
- ・観光客(京都をより深く楽しむために)
- ・市民(京都に暮らす誇りを持ち、京都の魅力を将来に繋ぐために)

三者の行動基準が示され、市、観光協会主導によりこの行動基準をもとに今後様々な取り組みが行われていくとの事。観光客の誘致により地域の文化・伝統が守られ継承されていき、いつまでも魅力的なディステーションでいられるよう、事業者としても努めていきたいと考える。

あやべ観光案内所

「あやべ吉水」という綾部市の山間にある茅葺きのお宿が環境に配慮した生活様式を宿泊者に提供しており、話題を呼んでいる。残飯を飼育している放牧豚に食べさせたり、飲料水は湧き出る山水を利用したり、お布団は化繊を使わずオーガニックコットンで天日干しをするなど、エコな暮らしは学ぶことが多い。

<https://www.ayabe-kankou.net/inn/yoshimizu/>

大阪観光案内所

「大阪あそ歩」まち歩きプログラム。日本一の規模の「まち歩き」プロジェクトで現在、150を超えるコースがある。地元のボランティアガイドさんの解説と交流を楽しみながら、大阪のいわゆる「ふつうのまち」を散策する市民主体の「まち歩き」。「ふつうのまち」であっても、勿論その地域の歴史、名所であふれており、地元に着した観光魅力が広く情報発信されることにより、大阪の観光振興、地域の活性化につながっている。

観光交流プラザ りんくうまち処

当案内所の運営会社は、コロナ渦が長期化する事を見越して、昨年旅行業を取得し、今年からローカルツアーを企画開始した。緊急事態宣言の影響で企画したツアーの中止が続いたが、ようやく7/17にトウモロコシ&オクラ収穫体験が決行でき、地元のケーブルテレビ「さのテレ」で取り上げられた。その他にも運営会社では昨年度、地元の食材を使ったフードコンテストを企画し、グランプリを受賞した方が、地元にあるチャレンジショップに

出店するきっかけとなった。出店した店舗には、多くの来店者があるとの事。

<https://icp-japan.or.jp/oishisano/sanomaegrandprix/>

JR 高槻駅観光案内所

高槻市の魅力をただ「見る」のではなく、体験し、地元の人と交流することで新たな良さを発見していただくことを目的に、こうした新しい観光スタイルを「体験交流型観光・オープンたかつき」と名付けて、高槻市の街ならではの自然、歴史、農業、グルメ、スポーツ、アートなど資源を活用し、多彩な体験交流型の観光プログラムを提供する取り組みを進めている。

観光おもてなしプラザ 泉佐野まち処

当案内所のある泉佐野市には、昔から受け継がれた歴史的景観「日根荘」のストーリーがある。変わらない風景や寺社仏閣など、観光客に喜ばれる要素が沢山揃っており、2019年に「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち 一中世日根荘の風景」として日本遺産に登録された。大木地区秋祭りの担いだんじり行事、日根野神社まくら祭りなど「旅引付」に記された祭礼が今も各地区に残っており、地元を盛り上げてくれる重要なイベントになっている。この2年間は、コロナウイルスの影響を受け、中止となっているが、地元住民に愛され続けている祭礼は、国内外の観光客を魅力し続けるであろう。他にもオーガニックタウンを目指す大木地区の方々と結成された「みんなのまちづくり隊」によって農業活性化のために、無農薬畑へのチャレンジ、田植え体験プログラムなどの活動を行っている。また水質を改善し、もう一度蛍を呼び寄せ、以前のような賑やかな町を取り戻したいという目的から始まったホタル復活プロジェクトも実施された。当案内所も地元応援プロジェクトとして、地元産の無添加石鹼や泉州タオルを看板商品として販売中。また廃棄繊維を色で分けてリサイクルする「カラーリサイクルシステム」から生まれた大阪泉州故繊維協同組合の商品「カラフルマグネットバー」もおススメである。

神戸市総合インフォメーションセンター

神戸市では農村ツーリズムを推進しており、特に北区には里山や貴重な文化財などもあり、ハイキングやサイクリングで散策できるモデルコースも紹介されている。 <http://www.kobe-satoyama-cycling.jp/>

姫路市観光案内所

「もっと姫路たび」という体験プログラムがあり、姫路の良さを地元の方々と一緒に体験して頂く。姫路城に行くだけではもったいない。多彩な姫路にふれる体験プログラムを組んで様々な旅のご案内をしている取り組みで、地域密着型のツアーとして人気を得ている。こちらは事前申し込み制となっていて開催日が決まっており、料金もツアーによって異なるが、ここでしか出来ない体験ができるということで人気となっている。

舞鶴若狭自動車道 西紀サービスエリア 下り線インフォメーション

「神戸大学・丹波篠山市連携プロジェクト」:丹波篠山市と神戸大学が地域連帯協定を結び、丹波篠山フィールドステーションを開設し、大学生が丹波篠山市で農家に学ぶ「食農コープ教育」に取り組むとともに、さまざまな共同研究、プロジェクトをすすめている。西紀サービスエリアでも丹波篠山地域おこし協力隊(神戸大学・丹波篠山市)による「マイクロカフェ篠山」(小さなキッチンカーで地元の黒豆とおいしい水で作った黒豆コーヒーなどを販売)が出店された事もある。

山陽自動車道 龍野西サービスエリア 下り線インフォメーション

赤穂市では「古民家再生促進支援事業補助金」を2019年より導入しており、古い町家や古民家を改修したカフェ

●8月のお題「サステナブル・ツーリズム～観光の力で地域の環境や文化、経済社会を守る地元の取り組みの紹介」(西日本) ◎ビジット・ジャパン案内所(Vol.503)
エや宿泊施設のオープンが増えている。取り壊しを待つだけだった空き家がおしゃれな空間に生まれ変わり新たな観光スポットや地元民の憩いの場になり県外からの移住者も増えているようだ。

- ・古民家の宿「加里屋旅館 Q」 <https://kariya-q.com/>
- ・リノベーションしたお店が並ぶスポット「きらきら坂」
<https://www.city.ako.lg.jp/kensetsu/kankou/shisetsu/kanko/kirakirasaka.html>

丹波篠山観光ステーション

当地域(兵庫県丹波篠山市)全体でのこれまでの取り組みを紹介すると、以下の通り。

- イタリアのアルベルゴ・ディフューゾから着想した古民家活用 分散型ホテル「NIPPONIA」:「アルベルゴ・ディフューゾ(Alberghi Diffusi)」とは、イタリア語で「分散したホテル」という意味。町の中に点在している空き家をひとつの宿として活用し、町をまるごと活性化しようというもの。
- 空き家を活用した一棟貸し施設「集落 丸山」による限界集落の活性化
- 観光から移住までを見据えた丹波篠山の暮らしを体験する4泊5日の「里山暮らし体験 ツアー」
- ローカルの食材と器を楽しむ観光の推進と地場産業の振興

奈良県猿沢イン

- 古くからその地で育まれてきた地域の有形無形の伝統・文化資産「修二会」(お水取り):奈良の東大寺二月堂で毎年3月1日から2週間にわたって行われる宗教行事。鎮護国家、天下泰安、風雨順時、五穀豊穰、万民快樂など、人々の幸福を願う行事とされた。東大寺の長い歴史の中で、大伽藍の消失の危機があった時ですら、「不退の行法」として一度も絶えることなく、約1250年以上も引き継がれてきた。
- 当案内所では、長く続く伝統的な産業を訪日客に紹介しようと、奈良の工芸品の展示を行っている。「奈良の墨」は天平時代から1300年の歴史をもつ奈良を代表する伝統産業で、奈良筆は1200年前にルーツをもつ。その他、500年前に誕生した高山茶釜など、これらを訪日客向けに分かりやすく歴史や特徴などを英語・中国語で紹介している。また、国の天然記念物に指定され、保護対象となっている「奈良の鹿」を保護する団体「奈良の鹿愛護会」が行っている募金活動も協力させて頂いている。

奈良市奈良町南観光案内所『鹿の舟』

- 当観光案内所が位置する奈良町は、伝統的な町家が比較的多く残り、独特の風情をたたえている町として女性や外国籍の方に人気のエリア。当館自体が大正時代初期の古民家を再生した建物であるため、建物内部も見学していただける施設となっており、歴史や由来など興味のある来館者にはご説明、ご案内している。また、観光案内として建築物に興味をお持ちの来館者には、地域で発行する「町屋めぐりMAP」などとともに付近の同様の施設を紹介したり、古民家を活用したカフェやゲストハウスも積極的に紹介することで、地域の文化資産の魅力を発信している。
- 当館内では、奈良の物産紹介の一環として、奈良に関する書籍や伝統工芸品、特産品(一刀彫、奈良団扇、手漉き和紙、蚊帳生地ふきんなど)の販売をしており、物販を通して奈良の魅力を発信する努力をしている。
- 当案内所のある複合施設内には、地元奈良産のお米を竈で炊いたほかほかご飯に、奈良食材のおかずを合わせた定食を提供する食堂があり、食事場所をお尋ねの来館者には、使用する薪が奈良吉野産の桧であることも含めて案内している。竈炊き体験のワークショップも開催しており、コロナ禍以前は特に外国籍の観光客に好評を得た。

法隆寺 i センター

現在の使い捨ての文化とは真逆の精神が息づいている法隆寺では、修理で取り出された古材は収蔵庫に集積され、また修理に活かされていく。与えられた資源を有効に活かすという精神はまさに未来志向の、サステナビリティを体現している存在で、SDGs を考える起点になるものである。また、法隆寺の北の、白畑峠付近に「法隆寺 古事の森」があり、将来の大修理に備えて材料となる檜をボランティアの方の協力を得ながら、大切に育てている。

熊野本宮観光協会

- 和歌山県は当所のある田辺市本宮町をはじめ、各市町村に「語り部」がいて、訪問者と一緒に古道を歩きながら案内している。そして主に熊野三山地域では外国語ガイドグループが外国籍の方への語り部となっている。特に熊野古道の歩き方、熊野の自然や信仰を来訪者に紹介できるので好評。いにしへの巡礼者がどのような気持ちで熊野を目指したのかを「追体験」してもらえる。
- 和歌山県世界遺産センターでは、熊野古道の補修作業「道普請」に訪問者に参加してもらえる制度を設けている。参加者は主に日本人グループで、修学旅行、会社の有志グループなどが多いが、飛び入りで歩いている外国籍の方が参加した、などということもよくある。世界遺産の補修作業に関われた、という誇りを持ってもらえるので好評である。

紀伊半島観光情報ステーション

サステナブルという名前が聞かれるより以前から、白浜町の管理する露天風呂「崎の湯」温泉では自然環境への配慮などで、石鹸、シャンプーなどを使用させない取り組みを行っており、掛け湯のみご利用いただき入浴をしていただいている。今で言うSDGsに配慮した取り組み。

<中国>

境港観光案内所

地元の水産業発展に向けた取り組みの一部として、「漁村市」を開催することで沿岸漁業の活性化を図る活動がなされている。通年ではなく期間限定であり、春から秋にかけての半年間ほど月1回の開催ではあるが、回を重ねるごとに人気が上がっており、地元の最重要産業の地元内外での認知度を上げる機会になっている(残念ながら昨年と今年はコロナの影響で開催なし)。

大山町観光案内所

西日本最大規模のブナの森を有する大山は古くから神の住む山として信仰の対象であり、その信仰心で守られてきた豊かな自然の中を歩くガイド付きのトレッキングツアーを実施している。ツアーに参加することで植物を通して生きていくためのいろいろな知恵や工夫などを楽しく知ることができ、また、ブナをはじめとする豊かな森、ふかふかの土が育む美味しい水の秘密に迫り、そこから受ける身近にある様々な恩恵を知ること、実体験として自然の大切さを学ぶことができる。

神門通り観光案内所

薬草による地域のブランディング化:当地は、大社の主祭神が医薬の神であるなど薬草と深いかわりを持つことから、薬草をとり入れた飲食、商品開発や体験プランが開発されている。

日御碕ビジターセンター

ツアー参加者に自然環境保全協力金をいただき、国立公園の保全に役立っている。その他、海岸清掃を組み込ん

●8月のお題「サステナブル・ツーリズム～観光の力で地域の環境や文化、経済社会を守る地元の取り組みの紹介」(西日本) ◎ビジット・ジャパン案内所(Vol.503)
だツアーも行っている。

岡山市ももたろう観光センター

岡山県内で実施されているサステナブルツーリズムを3例ご報告する。

- 森林セラピー <http://www.yurikagonokomichi.jp/>
- 古くからその地で育まれてきた地域の有形無形の伝統・文化資産「北木島採石場」
<https://www.kasaoka-kankou.jp/spot/2109>
- 「バイオマスツアー真庭」 <http://biomass-tour-maniwa.jp/>

米子自動車道 蒜山高原サービスエリア 上り線インフォメーション

米子自動車道 蒜山高原サービスエリア 下り線インフォメーション

蒜山高原の所在する真庭市は、バイオマスタウン構想を掲げ、地域資源の循環(バイオマス循環)を活用したまちづくりを進めており、その交流観光として各種体験メニューを組み込んだ「バイオマスツアー」を催行している。新型コロナウイルスの影響で一部地域からのツアー参加は中止としているが、緊急事態宣言に該当しない地域からの参加は継続している。

広島市観光案内所(紙屋町地下街(シャレオ))

日本で一番大きな内海、瀬戸内。その中央部である広島県には170以上の島が属しており、大小いくつもの島がすぐ目の前に浮かぶ「多島美」を楽しむことが出来る。今回紹介する一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会は地域の既存の自然、文化、産業、歴史、地産、といった観光資源をエコツーリズムの視点から掘り起こし、さらに、漁業、農業の活性化を促進する「八木灘海域でしか体験することができないエコツアー」を旅行者、訪問者に提供している。八木灘海域を周遊しながら歴史や文化を学びつつ、離島の課題などを認識してもらったり、自然を感じることを目的に、冬に体験できる牡蠣剥き体験やレモン狩り、刺網体験などのアクティビティを行っている。それぞれの地域が抱える共通の課題を「八木灘海域」というキーワードで広域的に連携を図り、“地域の活性化”や“島の無人島化”を防ぐ取り組みを、四季折々のストーリー性を持ったエコツアーを開催しながら随時発信している。

山陽自動車道 宮島サービスエリア 下り線インフォメーション

瀬戸内海エコツーリズム協議会の「エコツアー」:瀬戸内海国立公園の環境資源を活用し、宮島サイト、安芸灘サイト、防予諸島サイトの3サイトを主とし、瀬戸内海島嶼部において国内外の参加者を対象としたエコツアーの企画運営をされている。地域固有の自然、歴史、文化を活用した街並み散策、無人島体験、スナメリ・ウォッチングなど、日常では得難い体験ができるコンテンツのオリジナル・ツアー。

<https://setoecokyo.jimdofree.com/>

中国自動車道 安佐サービスエリア 上り線インフォメーション

県北 北広島町では6月の第一日曜日にユネスコ無形文化遺産の「壬生の花田植え」が行なわれる。飾り牛や早乙女達による西日本最大の花田植を見るため、毎年多くのお客様ににぎわう。残念ながらここ2年は中止となっている。

中国自動車道 吉和サービスエリア 上り線インフォメーション

中国自動車道 吉和サービスエリア 下り線インフォメーション

安芸太田町では2010年代半ばより山間地域資源を活用した、「ウルトラマラソン・ウォーキング大会」、森林セラピーなどを継続開催し、町民協働での地域おこしとして取り組みを続けている。

SUMIYA Spa&Hotel

広島市の瀬戸内海エコツーリズム協議会が、八木灘(瀬戸内海)の産業、地理、歴史などを訪ねる八木灘エコツアーを企画している。船で瀬戸内海の島を巡りながら、牡蠣打ち体験や多島海の地形(津と浦)を見たり、地元食材たっぷりの食事を楽しんだりできるとのこと。

新山口駅観光交流センター

環境負荷の少ない自然共生型のアウトドアアクティビティや観光—古地図歩き:山口県では古地図を眺めながら、地元ガイドの案内でまち歩きを楽しめるガイドウォークを山口県内及び島根県益田市の35カ所で開催している。また、当センター周辺でも山陽道、石州街道、萩往還などの古道が交わっているので、歴好きのアクティブ旅行者に旧街道についてよく聞かれる。今年、萩往還マラニック、萩往還イラスト展(当センターで開催)、江戸時代の歴史街道山口博物館特別展示、萩往還土日祝ワインコインツアーなど、山口市内でも様々な古街道観光アイコンを取り込まれている。

古地図について <https://www.oidemase.or.jp/kochizu/sp/>

萩往還 <http://hagi-okan.yamaguchi-city.jp/>

<四国>

徳島阿波おどり空港 案内所

徳島県では、農村体験(農業体験、山菜採り、地元食材を使った加工品の製造)、漁業体験(地引網漁、釣り)などを農家民宿などで実施している。

一般社団法人 鳴門市うずしお観光協会

鳴門の街を歩くイベントがあり、そこでは観光客と地域のボランティアガイドが街の紹介をしながら鳴門の活性化もかなう、とてもサステナブルなイベント。観光の力で鳴門の街を多方面でよりよい街に出来るようなイベントなどをこれから増やしていきたいと考えている。

道後観光案内所

- 古民家を利用したお茶屋:日本の伝統芸能であるお座敷文化をお客様に体験していただき、道後の温泉文化を継承していく。
- 松山東中学校から買い上げたグリーン電力でトライシクル(電動三輪車)を充電し、お客様に乗っていただき、道後の観光を楽しんでいただく。
- 無料ボランティアガイドによる、道後の町の歴史と文化案内
- 有料ガイドによるお遍路体験

松山自動車道 石鎚山サービスエリア 上り線インフォメーション

松山自動車道 石鎚山サービスエリア 下り線インフォメーション

愛媛県大洲市では、日本初となる木造天守に城泊できる「大洲城キャッスルステイ」と、城下町の町屋や古民家

●8月のお題「サステナブル・ツーリズム～観光の力で地域の環境や文化、経済社会を守る地元の取り組みの紹介」(西日本) ◎ビジット・ジャパン案内所(Vol.503)
を改修し、町全体がホテルという構想の分散型ホテル「NIPPONIA HOTEL 大洲城下町」をオープンし、歴史的資源が数多く残る風景を未来につなげる取り組みをしている。

宇和島市観光情報センター

足摺宇和海国立公園内に位置しているので、環境省や広域自治体とともに地域の自然環境・文化の保全につながるツアーのブラッシュアップを行っている。また、地場産業の認知度や消費拡大の観点から、見学・体験ツアーを実施。実際にツアー客が来ることで、各業者の自尊心を養う、販売につながるなど、まずは経済社会を守る活動に発展できるよう、活動している。

高知県「i」案内所

- 太平洋を利用したホエールウォッチング、漁業体験、ダイビング、シュノーケリング、クルーズ
- 四万十川や仁淀川、吉野川など川を利用した、ラフティング、カヌー、カヤック、SUP、キャニオニング、シャワークライミング
- 龍河洞を始め、伊尾木洞、猿田洞、稲葉洞、菖蒲洞の冒険・体験コース
- 田野町や黒潮町での塩づくり体験、芸西村の白玉糖(黒砂糖)製糖体験
- いの町や梶原町でできる紙漉き体験
- 江戸時代から続く日曜市を始め、火曜市、木曜市、金曜市、オーガニックマーケットなどの街路市
- 高知市や須崎市、中土佐町、黒潮町などでの薫焼きかつおタタキ体験
- 田舎寿司や田舎豆腐づくり、田舎こんにゃくづくり体験
- 四万十川の青海苔の養殖や、ゴリや川エビ・うなぎ・鮎漁など体験や料理の提供
- 土佐観光ガイドボランティア協会の町歩きガイド「土佐っ歩」を始めとする、各地域のボランティアの会によるガイドツアー
- 梶原町産の木を使った隈研吾設計の建築物
- 室戸市や土佐清水市のジオパーク

こうち観光ナビ・ツーリストセンター

- 「ジオパークガイド」:室戸市観光ガイドの会による室戸ユネスコ世界ジオパークのガイドツアー。個性豊かな地元ガイドが室戸岬の成り立ちや独特な地形をわかりやすく説明してくれる。またダイナミックな室戸の自然、歴史、豊かな生活文化などを通じて自然と人間とのかかわりを深く体感できる貴重なツアー。
- 「田舎寿司づくり体験」:酢飯に柚子酢を効かせ、りゅうきゅう(ハスイモ)、しいたけ、みょうがなどをネタにしたにぎり寿司や、たけのこ、こんにゃくなどの詰め寿司など、山里の食材を用いて盛り合わせた山間部に伝わる郷土料理。山間部の集落活動センターなどでは宿泊プランとともに体験できることが多い。
- 「宗田節づくり体験」:土佐清水で作られる宗田節は、生産量日本一。伝統のひき縄漁で一尾一尾ていねいに釣り上げている。おみそ汁やうどん、そばつゆはもちろん、けずり節をお好み焼きや焼きそばにかけたり、焼飯などの味付けに使ったりと、様々なお料理に応用できる。製作工程で、化石燃料や電気を使っておらず、骨や煮汁なども、美容品や肥料にしたり、海へ戻すことで魚たちの餌になるなど、捨てる所はほとんどなく、環境にとってもやさしい。
- 「古民家カフェ」:県内、古民家を利用し、おしゃれかつ落ち着いた雰囲気のあるカフェが人気。古民家のある場所は市内中心部から離れており、わざわざ出向くという感じである。中には行列のできるかき氷店もある。

<九州・沖縄>

久留米市観光案内所(JR久留米駅)

「くるめに泊まん農」というプログラムで田舎体験、自然体験を通じて田舎暮らしを楽しむ旅のニュースタイル「農家民泊」を提案。それぞれに違った民泊先、例えばガーデニング農家、米農家、フルーツ農家などに泊まって体験してもらうことで地域の特色や魅力を発信していく取り組み。

福岡空港国際総合案内所(国際線ターミナルビル)

- 「きもの体験」:手ぶらでOK。福岡城跡地、大濠公園、舞鶴公園へ気軽に散策していただける。

<https://yokanavi.com/tour/118957/>

- 「天神・博多まち歩き無料定時ツアー」:歴史・文化などを巡る無料ツアー。櫛田神社周辺の主要の寺を歩いてボランティアガイドによる案内で散策する。 <https://yokanavi.com/tour/?c%5B%5D=412/>
- 「博多町家」ふるさと館:博多の文化や暮らし、伝統工芸を紹介する施設。 <http://www.hakatamachiya.com/>
- 「博多はねや総本家 辛子明太子漬け込み体験」:辛子明太子の歴史を学びながら、自分だけのオリジナル辛子明太子を漬け込む体験ができる。
博多はねや総本家 明太子道場(hakatahaneya.com)

博多港国際ターミナル総合案内所

「博多町家」ふるさと館:「博多町家」ふるさと館は、明治から大正時代の博多の暮らしを紹介する施設で、展示棟・町家棟・みやげ処の3棟で構成されている。展示棟では、博多の歴史や文化、商家に伝わる民具が展示されている。また、博多の伝統工芸品の実演見学、博多人形・博多張子・博多独楽・博多曲物の体験が可能である(有料)。町家棟は明治20年代前半に博多織元の住居兼織り場として建てられた町家を移築復元したもので、博多織の実演見学、体験が可能である(無料)。展示棟は福岡市の指定文化財になっている。近隣には、毎年7月に博多祇園山笠が奉納される櫛田神社や、大型商業施設であるキャナルシティ博多もあり、市街地観光コースの中に組み込みやすいことも、紹介する理由の1つ。

九州自動車道 基山パーキングエリア 下り線インフォメーション

- 「山水グリーンフィールド」(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動 429):環境に負荷の少ない自然共生型のアウトドアアクティビティ。
- 「秋月 古民家貸別荘 我道庵」(福岡県朝倉市秋月 553)築100年以上の古民家を改築しており、現代の利便性を取り入れ、また、昔ながらの風情を残している。
- 「とす長崎街道まつり」(佐賀県鳥栖市):伝統文化の継承と文化財の保護を目的に毎年10月に開催されている。鍋島藩轟木宿と対馬藩田代宿の2つの宿場で開催される。鳥栖の歴史と自然が楽しめるコースで、江戸時代の衣装に身を包んだガイドの説明がある。

九州自動車道 古賀サービスエリア 上り線インフォメーション

ここから車で30分くらいの所に、世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の一つである宗像大社に隣接する「海の道むなかた館」というガイダンス施設がある。ここではプロジェクションマッピング、ジオラマ、レプリカなどを使って視覚的にわかりやすく、世界遺産の価値が分かるとともに宗像の歴史について学べる。体験学習では、勾玉や土笛を作る体験や、室外で古代の火おこし体験が出来る。

佐賀市観光案内所

- 「鹿島干潟交流館」(鹿島市):佐賀県の「森川海人プロジェクト」(豊かな「森・川・海」を人が未来へつなぐ取り組み)を応援するための鹿島市の干潟体験。
- 「肥前浜宿まちづくり公社」:まちの雰囲気をつまでも残すため、建物を保存し、人が住み続けられるまちづくりを目指す。肥前浜宿はかねてより酒やしょうゆ、漬物といった醸造業が盛んで、今も発酵文化を色濃く残しており、これを活かしてにぎわいを戻そうとしている。
- 「環境芸術の森」(唐津市) <https://morisaga.com/>
- 「ひがさす 東与賀干潟」(佐賀市):シチメンソウを守るボランティア活動をしているのが、「シチメンソウを育てる会」と「東与賀まちづくり協議会」の方々である。ごみ拾いなど清掃活動の他、種取りや種まきを長年に渡り行っているが、なかなか改善に至っていない。環境の大切さを伝える啓発活動も行われている。

キルンアリタ観光案内所

- 佐賀県有田町内のNPO法人「灯す屋」。町内へ在住などを希望される方に行政や不動産会社などと連携し、古民家の空き家を紹介したり、以前製造中止となっていた伝統ある菓子を復活させ、販売へ繋げたりされている。
- 名称は「タイマーの宿」。電気、ガスなど2次エネルギーを使わないオフグリッドの個人経営の宿で、オーガニック野菜、ナチュラルワイン、薪のカリフォルニア料理などを提供されており、自然を満喫できる宿。

長崎市総合観光案内所

長崎市が主体となって取り組み始めた「長崎さるく」が、市民主体の運動となって大きく成長している。「長崎さるく」は、歩きながら長崎の観光や見聞を深めるというコンセプトを持って2006年に開催された日本初のまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」がベースとなっている。コースマップの作成から案内するガイドまで「まち歩き」の根幹はすべて市民参加によるもので、まち歩きの仕組みの確立により「まち」、「ひと」を活かし新たな観光ニーズに応え、地域の活性化を促してきた。NPO法人長崎の風(代表 黒田正彦氏)は、長崎の魅力を伝えるため、長崎の豊かな歴史・文化・自然や食・特産品を紹介、洋館(元フランス領事館「東山手甲十三番館」)の活用を通じてまちづくりに取り組んでいる。

- ・ツアーの一例:「長崎開港450年世界遺産のまち外海を歩く～大野教会堂から出津教会堂へ～」など。ツアーは長崎市内全域オーダー可(場所・時間ご希望対応)、通訳同行、多言語表記のパンフレットやマップの配布(英・中・台・韓)あり。

佐世保観光情報センター

- 「ハウステンボス」:「ハウステンボス」は元より、荒れていたこの地の再生、本来あるべき自然の姿の復活をかけた、そして未来へ向けた持続可能な開発を目標としている。40万本の植樹、汚水の自然還元、生態系にやさしい石積みの護岸など。
- ツアーの開催:当佐世保観光コンベンション協会にて、日本海軍の施設跡などを海上自衛隊OBのガイドで見学するツアー「海軍さんの散歩道」や、島に渡り文化財(天主堂)や地元の食材を使った食事をする「建築士と訪ねる黒島天主堂」などを設定。

長崎空港案内所

- 郷土料理・大村寿司作り教室:大村市の「おおむら夢ファームシュシュ」で、事前予約制で開催されている。
- 古民家ステイ:北松浦郡小値賀島で、築100年以上の古民家を改修。1棟1組貸し切り。
- 「やったろう de 高島」:長崎市高島町のシュノーケリング体験。海中のゴミを1つ以上拾うと1ポイント貰

える。10ポイント貯まると、シュノーケリング体験が1回無料になる。

- 無人島体験:大村湾に浮かぶ西海市の無人島「田島」を1日1組限定貸し切り。キャンプやサバイバル体験が出来る(火起こし、魚釣り体験も可)。
- ガラスの砂浜(大村市):長崎空港から箕島大橋を渡った所にある。長崎県が大村湾水質改善のため、廃ガラス再生砂を用いて造成した浅場。

道の駅 阿蘇

- 田園空間博物館では牧野ガイド事業を行っている。牛や馬を放牧する「牧野」は私有地で普段立ち入ることはできず、ガイドと一緒にのみ入ることができる。環境を守るため、牧野に入る前に必ず履いている靴とマウンテンバイクの消毒を行う。ガイド料の一部は草原管理維持費に寄付される。「草原ライド」「トレイルウォーク」で阿蘇の自然を五感で体験して頂ける取り組みとなっている(<https://www.aso-denku.jp/bokuyaguide/en/>)。その他、自転車観光では阿蘇を五感で楽しむ「満喫ライド」を行っている。サイクリストの方には事前に予約すると無料駐車場、更衣室、無料で荷物のお預かりができ、道の駅阿蘇のソフトクリームと「夢の湯」温泉の割引券をお渡しするサービスを行っている。
- 文化面ではサテライト事業を行なっている。サテライトとは、阿蘇に暮らす人々(阿蘇びと)が選んだ、特に大切にしたい、後世に残していきたい、自然、景観・風景、歴史・文化のことである。現在95カ所が登録されている。阿蘇谷を一望できる絶景スポット、可憐な花々が咲きほこる小道、神話・歴史のロマンを伝える神社、仏閣まで内容は多岐にわたる。地元の方やジオガイドが案内する散策ツアーを年間を通じて行っている(今年度は熊本県内のコロナ感染リスクレベルが4以上の場合イベントを中止している)。

九州自動車道 宮原サービスエリア 下り線インフォメーション

人吉市は観光客施策を通じて昨年の豪雨災害からの復興を目指して、地元の食資源を活かしたまちづくりに取り組んでいる。筍や椎茸狩りを体験後、野山や畑に囲まれた大自然の中で収穫した食材を使用した料理を味わうツアーやジビエ料理、ヴィーガン対応の食事ツアーも実施されている。また、水上村観光協会では自然を活かした「森林セラピー」なども行われている。

九州自動車道 宮原サービスエリア 上り線インフォメーション

熊本県阿蘇地域では、「千年草原」を守る取り組みとして年に1度行っている野焼きの参加者を一般から募集したり、阿蘇温泉観光旅館協同組合と連携し、ワーケーションの取り組みも行っている。阿蘇草原保全活動センターの一部をワーキングスペースとして活用したり、合宿スタイルのワーケーションなどを個人だけではなく、企業向けにも発信している。

大分市観光案内所

- 「線路敷ボードウォーク広場」:2012年3月に大分駅の高架切り替えが行われた。それに伴い、旧鉄道敷の有効活用が求められていることから、日豊本線の鉄道残存敷を整備し、人にやさしく魅力的な都市空間を目指した。その鉄道残存敷を利用した広場は2019年11月に供用が開始された。大分駅から徒歩約15分の場所にあり、駅周辺の観光案内で紹介することも多い。バスケットコートなども設置され、市民の「にぎわい」「憩い」の場として親しまれている。JR大分駅から東側は、「大友氏遺跡へと続く大分歴史回廊」の中核をなすエリアである。また、2020年にはアジア都市景観賞を受賞している。

東九州自動車道 別府湾サービスエリア 下り線インフォメーション

- 地域の有形無形の伝統・文化遺産「別府地獄めぐり」:国の指定名勝として海地獄、血の池地獄、竜巻地獄、白池地獄が独特で多様な色彩・形態の下に湧出する鑑賞上の価値、名所的・学術的価値の高い泉源である。他にも、鬼石坊主地獄、鬼山地獄、かまど地獄、山地獄があり、観光名所である。
- 体験や購入が継承に繋がる伝統工芸「竹細工」:室町時代に行商に使う籠が生産され、江戸時代から大きく発展し、別府の湯治客が使用する「かご」や「ざる」などの竹製品が生活用品として販売が盛んになった事で土産品として定着している。

宮崎市観光案内所

みやざきツーリズム:都市と農村の交流に関する滞在型余暇活動(ツーリズム)を行っている個人やグループの実践者などの構成員がネットワークを構築し、情報交流をはじめとする各種の取り組みを展開することにより、連携の拡大と宮崎らしいツーリズムの推進を通じ、農山漁村の活性化に寄与することを目的としている。

(例)諸塚村/～猟師さんと獣道の山歩き & 調理講座～森の恵み ジビエを体感する2日間

九州自動車道 桜島サービスエリア 上り線インフォメーション

種子島が「ヨガの聖地」認定を受け、地元滞在型で食や温泉を広める取り組みをしている。また、屋久島 QUO カードを販売し、収益の一部は環境保全のための支援や山岳のマナーの普及啓発に役立てられている。

奄美大島観光案内所

世界自然遺産登録前から自然遺産エリアの金作原原生林への入域に対する「自主ルール」制定や、国の「特別記念物:アマミノクロウサギ」など希少動物などの「ナイトツアー」利用適正化ルールの制定でマネジメントとコントロールを図っている。

以上